

令和5年度
オーストラリアへの
白石市中学生派遣事業
実施報告書



白石市国際交流支援協議会

目 次

令和5年度国際交流推進事業概要	3
オーストラリア友好親善訪問団団員名簿	4
オーストラリア友好親善訪問日程表	5
オーストラリア友好親善訪問団員感想文集	
1. 白石中学校 2年 阿部夏実	7
2. 白石中学校 2年 森理乃	9
3. 白石中学校 2年 四竈桜	11
4. 白石中学校 2年 庄司茉生	14
5. 福岡中学校 2年 水戸もえ	16
6. 東中学校 2年 佐藤皇我	18
7. 東中学校 2年 石田ゆい	20
8. 東中学校 2年 伊東明咲	22
9. 団長 荒生博幸	24
10. 副団長 一條亜紀子	26
オーストラリア友好親善訪問活動の記録	28

令和5年度国際交流推進事業概要

1. 事業趣旨

オーストラリアに中学生を派遣し、ホームステイや体験入学等の交流を通して、中学生の豊かな国際感覚を育み、互いの文化・価値観・生活様式等の理解と尊重を図り、友情を育むことを趣旨とする。

2. 派遣先・交流校

(派遣先) オーストラリア・ニューサウスウェールズ州 シドニー、カウラ

(交流校) 聖ラファエル・カトリック・スクール・カウラ校

3. 訪問日程

令和5年7月24日(月)～8月2日(水) 10日間

4. 訪問団員の構成

計10名 (生徒) 市内中学校 2年生 8名

(引率) 市職員 1名、学校教職員 1名

5. 宿泊

ホテル泊 (シドニー) 2泊

ホームステイ (カウラ) 5泊

機内泊 2泊

6. 内容

- ① ホームステイ
- ② 聖ラファエル・カトリック・スクール・カウラ校での学校体験 (2日間)
- ③ カウラ校へのパフォーマンス披露、白石紹介等のプレゼンテーション
- ④ カウラ、シドニー市内見学 (文化、歴史施設等)

令和5年度オーストラリア友好親善訪問団 団員名簿

〈生徒名簿〉

NO.	学 校 名	氏 名	ふりがな	性 別
1	白石中学校	阿 部 夏 実	あべ なつみ	女
2	白石中学校	森 理 乃	もり りの	女
3	白石中学校	四 竈 桜	しかま さくら	女
4	白石中学校	庄 司 茉 生	しょうじ まき	女
5	福岡中学校	水 戸 も え	みと もえ	女
6	東中学校	佐 藤 皇 我	さとう おうが	男
7	東中学校	石 田 ゆ い	いしだ ゆい	女
8	東中学校	伊 東 明 咲	いとう めいさ	女

〈引率者名簿〉

NO.	所 属	役 職	氏 名	ふりがな
1	白石南中学校	英語科教諭	一 條 亜紀子	いちじょう あきこ
2	総務部税務課	課長補佐	荒 生 博 幸	あろう ひろゆき

令和5年度オーストラリア友好親善訪問団 日程表

	月 日	地 名	時 刻	主 な 行 事 予 定	宿 泊
1	7月24日 (月)	白石市役所 白石蔵王駅 発 東京駅 着 羽田空港 発	12:15 12:30 13:37 15:24 22:00	市役所1階ロビー集合 出発式 終了後バスで白石蔵王へ やまびこ60号 モノレールで羽田空港へ カンタス航空(QF26)	機内
2	7月25日 (火)	シドニー空港 着	8:50	(機内で朝食) ホテルへ移動 シドニー見学 (セントメアリー大聖堂、オペラハウス、ロックスエリアなど)	ホテル
3	7月26日 (水)	シドニー カウラ 聖ラファエル校	8:00 15:00	バスでブルーマウンテン経由カウラへ ホストファミリーと対面	ホーム ステイ
4	7月27日 (木)	カウラ	9:00 15:15	ホストファミリーと一緒に登校 1日スペシャルプログラム	ホーム ステイ
5	7月28日 (金)	カウラ	9:00 15:15	ホストファミリーと一緒に登校 1日体験入学(訪問団の特別発表)	ホーム ステイ
6	7月29日 (土)	カウラ	終日	ホストファミリーと過ごす	ホーム ステイ
7	7月30日 (日)	カウラ	終日	ホストファミリーと過ごす	ホーム ステイ
8	7月31日 (月)	カウラ シドニー	9:00 17:30	学校集合、バスでシドニーへ移動 シドニーのホテル到着	ホテル
9	8月1日 (火)	シドニー シドニー空港 発	9:30 17:30 20:20	クレアシドニー事務所訪問、シドニー見学 バスでシドニー空港へ移動 カンタス航空(QF25)	機内
10	8月2日 (水)	羽田空港 着 羽田空港 発 東京駅 発 白石蔵王駅 着	5:25 8:00 9:40 11:24	(機内で朝食) やまびこ55号 解散式	

令和5年度

オーストラリア友好親善訪問団員

感想文集

- | | |
|----------|-------|
| 1. 白石中学校 | 阿部夏実 |
| 2. 白石中学校 | 森理乃 |
| 3. 白石中学校 | 四竈桜 |
| 4. 白石中学校 | 庄司茉生 |
| 5. 福岡中学校 | 水戸もえ |
| 6. 東中学校 | 佐藤皇我 |
| 7. 東中学校 | 石田ゆい |
| 8. 東中学校 | 伊東明咲 |
| 9. 団長 | 荒生博幸 |
| 10. 副団長 | 一條亜紀子 |

「オーストラリアへの白石市中学生派遣事業を振り返って」

白石中学校 2年 阿部 夏実

私は、ずっと中学2年生になったらオーストラリアに行ってみたいと思っていました。オーストラリアに行って、ネイティブの英語を聞き、自分の英語力を高めたいと思いました。また、言葉も文化も異なる場所で自分自身を成長させたいと思いました。しかし、コロナ禍になり派遣事業が昨年度まで中止となっていました。「行けない」と思っていたそんな時、「今年度はある」と聞きとても嬉しかったです。



▲事前研修会に取組む

4回の事前研修では、ALTと一緒に語学演習をしたり、ラファエル校で行う発表の打ち合わせをしました。

オーストラリアへと出発する当日、初めての海外ということで、不安もありましたが、とてもワクワクしていました。周りのみんなも同じ気持ちだったと思います。

オーストラリアの空港に着いた時、周りからは、英語しか聞こえてこなくて、「海外なんだ」とどんどん実感がわいていきました。その後私たちは、バスで街並みを見て回り、観光スポットの「オペラハウス」に向かいました。オペラハウスは、近くで見ると、とても大きくて、特徴のある形をしていました。

26日の3日目からは、いよいよホストファミリーと合流し、ホームステイが始まりました。みんなと解散して、言葉も違うホストファミリーと5日間過ごして行けるのかとても不安でした。私のホストファミリーは、とても親切で、オーストラリアで有名なものを沢山教えてくれました。

4日目は、カウラ市内をラファエル校の先生と一緒に見て回りました。私たちは、戦争捕虜収容所跡地を訪れ、戦争や当時の日本人兵士たちについてお話を聞き、初めて知ったことが沢山あり、とても驚かされました。そして、オーストラリアの人達が、日本との繋がりをとても大事にしてくれていることを知りました。

5日目には、ラファエル校で全体発表を行いました。クイズは、みんなとても興味を持って聞いてくれて、会場がとても賑わっていました。茶道の発表も上手く行き、今まで準備をしてきて良かったなと思いました。



▲カンガルーの赤ちゃんを抱っこ

6日目には、みんなが集まってボンファイヤーを行いました。一條先生と私の誕生日が近かったこともあり、誕生日をお祝いしてくれました。ホストファミリーからは、誕生日プレゼントを貰ってとても嬉しかったです。ホストファミリーと過ごす最後の日は、「最後なんだ」と少し寂しかったです。言いたいことがしっかりと伝わらず、大変だったこともあったけれど、伝わった時の喜びや、ホストファミリーの優しさなどを感じられてとても良かったです。



▲ボンファイヤーにて誕生日を祝ってもらう

帰る時、「まだオーストラリアにいたい」と思いました。オーストラリアでの10日間は、とても充実したものになったと思います。色々なことが日本とは違う中で、団員のみんなが成長した、とても良い経験となりました。今回の経験を将来にしっかり活かして行きたいと思います。

最後に、私たちがこのような貴重な経験が出来たのは、これまで色々なことを計画して準備してくださった皆さんのおかげです。支えてくださった皆さん本当にありがとうございました。

「オーストラリア派遣事業を振り返って」

白石中学校 2年 森 理乃

私がオーストラリア派遣事業に応募した理由は、母や従姉がオーストラリアでホームステイをしたことがあったという話を聞いていて、私も海外に行ってみたいという憧れがあり、日本や白石市と異なる文化を学びたい、英語力を向上させたいと思ったからです。

4回の事前研修での語学練習では、ALTの先生方と現地で話せるように英会話の練習をしたことによって、英語で話すことが楽しいと感ずることができました。色々なことを教えていただいたおかげで、現地で助けていただいたのでALTの先生方、そして素敵な経験をさせていただいたお世話になった方々には感謝しかありません。本当にありがとうございました。全体発表や茶道のグループ発表の練習では、日本や白石について知ってもらおうと一生懸命準備をしました。



▲班活動の準備に取り組む

オーストラリアに着いたときは、緊張もしていたけどとても気持ちがワクワクしていました。シドニー観光では、これまで画面を通してでしか見ることのできなかったオペラハウスやハーバースブリッジ、ボンダイビーチを実際に自分の目で直接見ることができ、とても感動しました。その時にちゃんと自分は海外に来ているのだと実感しました。訪問団員のみんなとご飯や買い物をして楽しかったのを覚えています。友達と一緒にホテルで過ごした時間はたくさん笑い、楽しい時間でした。

次の日の午後はカウラ市に着き、ホストファミリーと対面してホームステイが始まりました。私はとても緊張していましたが、会ったときはあまり会話をすることができませんでしたが、子羊などのお世話を手伝ってから少しホストファミリーとの距離が縮まった気がしました。



▲ホストシスターとの初対面

28日の全体発表ではラファエル校の生徒の皆さんが問題に正解したとき、とても喜んでくれて「こんなに喜んでくれるんだ。」と私もとてもうれしい気持ちになり、一生懸命問題を考えて準備をして良かったと思いました。グループでは茶道の発表をし、来てくれた生徒の皆さんが笑顔になってくれたので日本の文化を伝えることができ嬉しかったです。その

あと学校で生活をしたときは、ホストシスターの友達が優しくお話をしてくれました。授業でわからないことを教えてくれたり、できたことがあればとても褒めてくれました。こんなにも優しいのだと実感し、とても楽しい学校生活をみんなのおかげで過ごすことができました。

5日間のホームステイでたくさんの思い出が作れました。家族と休日にネットボールをしたり、トラックを走って競争をしてたくさん運動をし、ホストシスターのネットボールの試合を応援しに行ったりしました。次の日は、夏実の家族と一緒に動物園に行き食事をしてたくさんの動物をレンタルできる車に乗って見て回ったりもしました。一緒に食べる最後の夕食には手巻きずしを作ってもらい、ホストファミリーのみんなと食べ、映画を見たのも最高の思い出です。ホストファミリーに感謝の手紙を1人ずつを渡すと喜んでくれてハグをしました。とても帰るのが寂しく、もっとみんなと一緒に過ごしたかったと思えるほど楽しかったです。ちゃんと最後に感謝の気持ち、楽しかったことを伝えることができたので本当に良かったなと思います。



▲ホストファミリーとの休日

ホストシスターが10月に来るので、また会えると思うと楽しみでワクワクが止まりません。5日間楽しく過ごさせてもらったので、今度は私が恩返しをして日本で楽しく過ごしてもらえたらなと思います。

これまでの1日1日を大切に楽しく過ごしつつ、異文化についても学び、現地で英語の発音なども聞いて目標にしていた英語力の向上を達成することができました。この派遣事業を通してさまざまな日本語の単語も調べて英語に直して覚える、という習慣が身に付き、自ら英語を学ぼうという意志をもつことができました。オーストラリアに行ってから、とても自分の成長を身を感じる事ができたので良かったです。これからはもっと勉強をしてさらに英語力の向上を目指して努力していきます。

「ホストファミリーと過ごした思い出」

白石中学校 2年 四竈 桜

『私がオーストラリア応募を決心したのは小学2年生でした。家族で沖縄に行った時のホテルに外国人がたくさん泊っていて、小6の兄は外国の子供たちの持っている虫取り網を指さして「網！アミ！プリプリ！」という適当な英語であっという間に仲良くなり、一緒にヤモリ採りをして遊びました。髪の色も目の色も違うけれど、私と同じものを見て同時に笑い、ヤモリに噛まれて驚く表情も泣き声も全部私と一緒になのです。外国人はほかの星の宇宙人なんかじゃない、同じ人間なんだ、もっと話してみたい、関わってみたいと思いました。』これが今回の派遣に応募するときにした志望理由です。今読み返してみても思うことは、この時の自分の希望や目標がちゃんと達成できたという満足感でいっぱいです。思い出の大部分はホストファミリーと過ごした5日間です。私はホストファミリーに本当に大切にしてもらい、心から感謝しています。ステイ先でたくさんできた思い出の中から6つに絞って書きたいと思います。



▲ホストシスターとの思い出

第6位 私のホストシスターはハンナという中学3年の女の子でした。お父さんお母さんと11歳の弟、7歳の妹の5人家族でした。私は出発前、自分で持ちものを選んで荷造りしました。日本は夏真っ盛りですが、カウラは初冬くらいなので冬服を持っていったかったのでしまっておいた冬物衣類の一番上にあっという間に母が冬によく着ていたトレーナーを詰めました。そしてそれをカウラで着ていたら「STAFF??あなた、スパッシュランドの従業員なの?」と言われました。その時初めてトレーナーの左胸にある模様が英語で『スパッシュランドスタッフ』とプリントされていたことに気が付きました。私が「そうだよ！私のお母さんのだよ」と言ったら「え!?!あなたお母さんと同じサイズなの!?!」とすごく驚かれました。なぜならハンナのお母さんはとても大きいのです。日本人の男の人くらい背が高いです。私の服の文字を読んで「staff?」と不思議そうに首をかしげる妹がとてもかわいかったです。

第5位 お母さんの運転で買い物に行くとき、車の窓の外を指さして「ほら、カンガルーだよ。気を付けてね」と言われてびっくりしました。カンガルーが道路脇に立ってこちらを見ていたのです。「あそこに、エミューがいるよ」と言われて見ると野生のエミューが2頭そのへんにいました。私は日本の動物園でしか見たことのない生き物を野生で見ることができて感動しましたが、白石で言うなら小原街道沿いでカモシカや

猿に会うくらいの気軽さのようでした。

第4位 ステイ中に、農場を経営しているおじいちゃんとおばあちゃんの家遊びに行きました。羊や牛、馬、あひる、鶏などたくさんの生き物を飼っていて触らせてもらいました。それからビリヤード台があって私は生まれて初めてビリヤードをしました。ルールは簡単で分かりやすかったのですが、やるのは難しく、ハンナから「ねえ、ルール分かってる?」「分かってるよもちろん」「でもあなたさっきから人の球ばかり落としてるよ」「だって難しいから自分の球を全然落とせないんだよ!」と言ったらみんなに大笑いされました。弟は小さいのにとっても上手でクールでした。家族でビリヤードをして過ごすなんて映画のワンシーンのようでかっこいいと思いました。



▲ホストファミリーとビリヤード

第3位 ステイ先でお抹茶を振る舞おうと思い、お茶菓子を奮発して見た目がとても美しい京菓子を買って持っていきました。それからついでにカルビーの堅あげポテトブラックペッパー味が特別仕様の北斎パッケージだったので日本らしいと思いそれを一つと、きのこの山とたけのこの里のアソートパックを持っていきました。そしたら京菓子の方は「beautiful」と言われたけれど、大人気だったのはスナック類の方でした。「もっとない?」と聞かれ「もうない」と言ったらものすごくがっかりされ、「日本に行ったらいっぱい買って帰る!」と言っていました。現地のお菓子をいろいろ食べさせてもらいましたが、私がお菓子の味に慣れてないからあまりおいしく感じないだけかなと思ったのですが、家族のこの反応を見て、日本のお菓子は世界的に見てもおいしいんだと気づきました。今にして思うとコアラのマーチも持って行けばよかったです。

第2位 夜、歯を磨こうと思ってバスルームに行ったら暗がりの中、バスタブに赤ちゃんが座っていてビックリし過ぎて思わず「うわっっ!!!」と叫んだらその声が家中に響き渡って「What's up!」「What's up!?!」と家族全員が駆けつけてきてくれました。「べ・・・baby・・・」と恐る恐る指さして言ったら「oh! It's mine!」妹のお人形さんでした。家族はみんな大爆笑していましたが、私はこんなリアルな赤ちゃん人形見たことがなく、日本のお人形さんはかわいらしくデフォルメされているのに対し、こちらの人形は生々しくてちっともかわいいという感じではなく、薄暗がりの中、この家の中にいるはずのない新生児が薄目を開け両手を伸ばした格好でバスタブに座っていたので、この旅行中一番くらい驚きました。

第1位 おじいちゃんの家で夕食をごちそうになった時にラム肉が出ました。「おいしい!」と言ったらハンナが「その肉さっきあなたが頭なでた羊だよ」と言うので「えっっ!?!」と驚いたら「嘘だよ(笑)。昨日のだよ」私は再度「えっっ!?!」と叫びま

した。でも2度目の方はジョークじゃなく本当でした。なぜならキッチンにはと殺した跡があって、大きな骨がゴロっと置いてありました。『命をいただく』ということをしごく実感しました。

私はホストファミリーとの生活を通して、志望の動機でもある外国の人たちとのコミュニケーションをたくさんとることでき、そして確信したことは、「言葉が違って、見た目が違って、同じ中学生、同じ人間なんだ」ということです。同じことで一緒に笑い、驚き、喜ぶことができる、私となんのかわりもない中学生でした。ハンナとは秋に日本に来た時にすること

をたくさん約束してきました。一緒にうちの温泉に入ろうと言ったら「ワオ」と言っていました。ハンナとは帰国してからもインスタでやり取りしています。今回の派遣で培った英語力をここで終わらせず、ホストシスターとのリアルなコミュニケーションを継続し、英語力の向上と、国際社会の中で生きる自分自身の人間性の向上につとめていきたいと思っています。



▲ホストファミリーとお別れ

「オーストラリアへの白石市中学生派遣事業を振り返って」

白石中学校 2年 庄司 茉生

私がオーストラリアへの派遣事業に志望した理由は二つありました。一つ目はオーストラリアの伝統や文化に触れて、日本との違いやそれぞれの良さを学びたいと思ったことと、二つ目は海外の人達と友達になりたいと思ったことでした。また、ネイティブな英語を聞き取り、話すことや、経験したことを将来に生かしたいとも思っていました。

事前研修では、初めに語学演習を行い、オーストラリアへ行ったときに実際に使える英会話を学びました。ALTと話してアドバイスをもらったり、友達同士で相談しながら、分かりやすく伝える方法を考えて、英会話に挑戦したりしました。そこで学んだ英語がホームステイなどで役に立ったので良かったです。また、後半では、ラファエル校で行う全体発表の打ち合



▲ALTと語学演習に取り組む

わせやリハーサルを行いました。クイズは自分で作業する時間が多かったですが、折り紙の発表は三人で協力しないと上手くいかないのので、一回一回の打ち合わせを大切に準備をしました。

オーストラリアに着いてからは、初めて外国に来たことへのワクワクが大きかったです。シドニーでは、オペラハウスなどの観光スポットへ行ったり、現地で昼食を食べたりなど、新しい発見がたくさんあってとても楽しかったです。

カウラでは、28日にラファエル校で全体発表を行いました。全員が当日までに練習してきた成果を発揮できた発表だったと思います。また、折り紙の発表では、笑顔で臨機応変にしっかりと対応できたので良かったです。生徒の皆さんが興味を持って自分たちの発表を聞き、体験しているのを見て、今まで一生懸命準備してきた良かったと感じました。また、発表の時はホストシスターだけではなく、生徒の皆さんも優しくフランクに話しかけてくれて、とても嬉しかったです。

カウラでの一番の思い出はホームステイをしたことです。ホストファミリーと一緒に5日間を過ごしました。ホストファミリーとは、英語で会話し、伝え方が分からないときは、ジェスチャーや翻訳を使ってコミュニケーションをとりました。ホームステイ中に印象に残っているのは、29日と30日の休日です。29日は動物園に行ったり、ラグビーを観戦した



▲授業に取り組む

りして、30日はホストファーザーの誕生日だったので、おばあちゃんの家に行ってパーティーをしました。ホストファミリーは、とても優しく、私のことを家族の一員として暖かく受け入れてくれました。

また、ラファエル校でできた新しい友達も、私分からない英語があった時には分かりやすくゆっくり話してくれたり、体育の授業ではサッカーが上手く出来なかった時もハイタッチをしてくれたりして、とても親切で思いやりがありました。そんなみんなのを見て、仲良くなることに、言語や文化の壁は自分が考えているよりも高くないのだと分かり、より仲良くなれたので良かったです。

今回のオーストラリア派遣事業を通して、私は今までの自分よりも『成長した自分』になって帰ってくることができたと思います。今回学んだことを思い出としてとどめるのではなく、気になったことやもっと知りたいと思ったことを調べ、自分の学びを深めていきたいです。また、異文化の人とのコミュニケーションをとることへの面白さを知ることもできました。このことを周りの人へ伝えていき、英語などを使ってコミュニケーションをとることへの苦手意識をなくしたいです。そして、今回の経験を学校生活や将来に生かしていきたいです。



▲ホストファミリーお手製ランチボックス

最後にこのような貴重な経験ができたのも、私たちのためにいろいろと準備をしてくださったたくさんの方々のおかげです。大変お世話になりました。ありがとうございました！

「オーストラリアへの白石市中学生派遣事業について」

福岡中学校 2年 水戸 もえ

私が今回、オーストラリア友好親善訪問団に応募した理由は、2つあります。1つ目はキャビンアテンダントという将来の夢をかなえるためです。私は幼いころに海外ドラマを見てから海外に強いあこがれを持つようになり、色々な国に行けるキャビンアテンダントになりたいと思っていました。この仕事はもちろん外国人と接する仕事ですので、実際に海外に行って英語を肌で感じ、英語力や英語でのコミュニケーション能力を高めたいと思いました。2つ目は日本とオーストラリアの文化や価値観などの違いについて学びたかったからです。私はこれまで海外に行ったことがなかったので、今回を機にこれらの違いを実際に経験して学びたいと思いました。

4回の事前研修では語学演習やカウラでの出し物を考えたりしました。語学演習ではALTの先生たちとオーストラリアに行ったときに実際に使う英語のシュミレーションをしました。

そして出発式、新幹線や飛行機での長時間の移動を終えてオーストラリアに着きました。着いたときは、不安でいっぱい自分が本当に海外にいるという実感がわきませんでした。そんな不安の中で最初にシドニー観光をしました。シドニー観光では、まずオペラハウスに行きました。実際に見ると、とても大きく、色々な角度から見ると全方向で建物の形が異なって見え、面白く、迫力がありました。次にボンダイビー



▲ブルーマウンテンをバックに

チに行きました。海の色が本当に青くてすごくきれいでした。また、オーストラリアは冬ですが海に入っている人がたくさんいて驚きました。たくさんのシドニーの観光名所に行き、写真でしか見たことない場所を実際に見て充実した1日になりました。次の日はいよいよ、ホストファミリーがいるカウラに行きました。ホストファミリーと会った時、とても緊張し、全く会話ができなかったけれど、ホストファミリーが優しく声をかけてくれて安心しました。私のホームステイ先の家は本当に大きくて、とても驚きました。こうして5日間のホームステイが始まりました。ホームステイ中で特に印象深いのはボンファイヤーと学校体験です。ボンファイヤーではみんなで焚き火で焼きマシュマロをしたりソーセージサンドやケーキを食べました。どれもすごく美味



▲ホストシスターとの下校

しくてとても楽しかったです。学校体験では、ホストシスターと実際に学校に行って授業を受けたりしました。最初に出し物として白石市に関するクイズをしました。とても緊張したけれど、想像以上に盛り上がり、スピーチも上手くいったので良かったです。折り紙体験ではみんな難しいと言いながらも上手に折っていて、初めてなのにすごいと思いました。生徒のみんなが一生懸命、日本の文化を学ぼうとしてくれてとてもうれしかったです。

私の学校体験での一番の思い出は休み時間にみんなで歌を歌ったことです。私のホストシスターの友達が私の好きな洋楽を流してくれてみんなで一緒に歌いました。みんなとても優しく面白く、一生の思い出になりました。この5日間はホストファミリーと動物園に行ったり馬に乗ったりなどたくさんの思い出ができました。日本語が通じない環境で不安な事もたくさんあったけれど、いろいろな経験ができました。また10月にホストシスターが白石へ訪問するので、今から待ち遠しいです。

今回のオーストラリア派遣で日本とオーストラリアの家の造りや学校での過ごし方の違いなどたくさんの違いを学ぶことができました。初めての海外で慣れないこともたくさんあったけれどホームステイや学校体験、シドニー観光など本当に楽しいことばかりで一生、忘れられない思い出になりました。ですが今回の体験で改めて自分の英語力のなさを知りました。自分の英語に自信がなく、ホストファミリーに自分から話しかけることができなかったので、これからはもっと英語を勉強して英語力を向上させたいです。また今回の体験で学んだことなどを色々な人に知ってもらうためにたくさん発信していきたいです。



▲ボンファイヤーに参加

今回は貴重な体験をさせて頂き本当にありがとうございました。

「オーストラリアで感じたこと」

東中学校 2年 佐藤 皇我

僕が今回のオーストラリア友好親善訪問団に応募したきっかけは、日本との文化や価値観の違いを自分で感じてみたかった事と英語が好きで得意だったのでネイティブの英語に挑戦してみたいと思ったからです。

出発当日。色々な準備を終え、万全の状態だったのでとても楽しみでした。空港での保安検査では引っかけられないか少し緊張しました。無事に出国ゲートを抜け、自由時間に食べた日本での最後のご飯となる豚骨ラーメンは普段より美味しく感じました。飛行機に乗って離陸するのを今か今かと待っていました。機内では映画を2本も見てしまいました。オーストラリアに到着してシドニーでハーバーブリッジやオペラハウスを見



▲ブルーマウンテン登頂

てとてもすごいと思ったし、その歴史なども聞けたので勉強になりました。さらに、シドニーの町ときれいに保たれた海や木々のコントラストがとてもきれいですごいと思いました。昼食に食べたフィッシュアンドチップスがあまり口に合わず、これからの食事がどうなることか心配になったけど、夕食に食べたステーキがとても美味しく安心しました。翌日、バスでカウラに向かいました。途中でブルーマウンテンに寄って景色を見ました。そして、ブルーマウンテンの名前の由来は「ユーカリの木の油が空気中に出て、それに光が当たることで青っぽく見えるから」ということを知り、一つ知識が増えました。そこからさらにバスで移動して、ようやくカウラに着きました。先生と高校生がお出迎えをしてくれて嬉しかったです。その後、ホストシスターとホストブラザーに会って、これからのホームステイがより楽しみになりました。その日の夜、夕食にサーモンが出てきて肉ばかりだと思っていたので意外でした。日本からのお土産を渡すととても喜んでくれて、その中に入れていたけん玉で楽しそうに遊んでくれてとても嬉しかったです。朝食には目玉焼きご飯が出てきてそれに使われていたお米が日本の米とはかけ離れた味をしていて日本に来た時には美味しいお米を食べさせてあげたいと思いました。土曜日にはオーストラリアの首都であるキャンベラで買い物をしました。僕はスニーカーが好きでオーストラリアにしか売っていないナイキのスニーカーを探していて、ホストファミリーも一緒に探してくれたおかげでそのスニーカーが見つかりました。それを買ったこともうれしかったけど、何より自分のためにそこまでしてくれることがうれしかったです。日曜日に



▲ホストファミリー宅での一枚

はランチとして、ステーキ、ラム肉、ベーコン、ウインナーをパンや目玉焼きと一緒に食べました。正直、食べるのが大変だったけど頑張って全部食べることができました。その後はホストブラザーと公園でバスケットボールをしに行って、そこにいた人たちと一緒に遊んでとても楽しかったです。

学校体験では白石紹介のクイズが想像の何倍も盛り上がりってくれたし、折り紙もみんな積極的にやってくれていてしっかり準備した甲斐があったなと思いました。授業ではみんな話しかけてくれて、インスタを交換したりお菓子を食べたりして楽しかったけど本当に大丈夫なのか不安になりました。休み時間はバスケットをしてみんなで盛り上がりました。良いところがいっぱいあってとても楽しい時間を過ごせました。



▲聖ラファエル校生徒との記念写真

そして最終日、海外で働くことについて話を聞きました。留学のことやワーキングホリデーについて話を聞いて、とても勉強になりました。タロンガ動物園は日本とは規格外のスケールで驚きの連続でした。充実した 10 日間だったなと思いながら飛行機に乗って、オーストラリアでの生活を振り返りました。

今回の訪問を通して学んだことをこれからの学校生活や仕事などに生かして行きたいと思いました。本当に貴重な体験をさせていただき、とても勉強になりました。今回は本当にありがとうございました。

「オーストラリアに行って」

東中学校 2年 石田 ゆい

私が今回オーストラリア派遣事業に応募したきっかけは、親のすすめもありますが、自分の英語力を伸ばしたかったからです。また、日本とは違う国の文化を実際に見てみたかったからです。本やインターネットでも調べられますが、やはり自分で見てきた経験に勝るものはないと思います。そして、昨年まで新型コロナウイルスの影響で中止だったオーストラリア派遣が、今年から再開すると聞いて、こんな機会を逃す手はないと思い応募しました。

オーストラリアでは、訪問員全員が責任をもって様々なことに取り組んでいたのが、大変有意義な滞在になりました。聖ラファエル・カトリックスクールでは、約200名の生徒の前で日本や白石市に関するクイズをしました。私たちが「答えは〇〇です!」といった瞬間に「やったー!」とすごく盛り上がったのが印象的でした。学校では、モーニングティー(2時間目と3時間目の間におやつを食べる)という時間がありました。私のホストシスターは、リンゴを剥いてくれたり、カップケーキを分けてくれたりしました。日本にはない時間なので、どのように過ごすのかと思っていましたが、おやつを食べたりお喋りをしたりして楽しい時間でした。あと、特別にカンガルーのルビーちゃんを抱っこさせていただきました。ふかふかでとってもかわいかったです。



▲ホストシスターとの対面

ここからは私のホストファミリーについてです。日本にいるときから、どんな家族なんだろうと思っていました。実際にお会いして、とても優しそうで安心しました。家には大きな車があり、床が高くて、階段のようなものがついていたので驚きました。オーストラリアの生活について自分なりに調べていったつもりでしたが、現地に行ったら、分からないことばかりで、「これは何ですか?」「どうやって使うのですか?」とたくさんホストファミリーに聞きました。ホストファミリーはその都度やさしく教えてくださったので、5日間なんとか問題もなく過ごすことができました。ホストマザーは、朝食にトーストやコーンフレークやパンケーキなど、登校時にはランチも作って持たせてくれました。私には少し量が多いなと感じる時もありましたが、とても美味しかった。



▲ホストファミリー宅のアルパカ

たです。また、ホストファミリーは、犬、猫、アルパカなどたくさんの動物を飼っていて、たくさん触れ合うことができました。

今回、外国の方とのコミュニケーションを通して感じたことは、自分はこう思っているとか、こういうの
がいいと思う、というのは、きちんと言葉にして伝えないと、伝わらないんだな、ということです。何度か自分の考えを聞かれたときに、なんて答えたらいいのか分からず言葉が出てこなくて、ちょっと微妙な雰囲気になってしまいました。一方で伝わるってこんなにうれしいんだな、と思った時もありました。自分が考

えていることを、自分の英語で話し、それが伝わったときは、すごくうれしかったです。

今後は、自分の気持ちや考えを、きちんと言葉にして伝える努力をしようと思います。また、もっと自分の英語力を高め、外国の方と話す機会があったときに、たくさんお話できるようにしたいと思います。また、オーストラリアで触れた新しい文化を次に行く今の中学校一年生の人たちに伝えていきたいです。

最後に、こんなに楽しい日々を過ごせたのも、保護者の方々、そして市役所の方々、荒生さんや一條先生のおかげです。本当にありがとうございました！



▲全体発表での様子

「オーストラリア友好親善訪問団の一員として学んだ事」

東中学校 2年 伊東 明咲

私が今回の派遣事業に応募した理由は、交流をする事に興味を持ったからです。自分の英語が現地でどのくらい話せるか分からないけれど、自分の住んでいる市を自分の言葉で外国の人に伝える事に挑戦してみたいと思い、応募しました。

4回の事前研修では、4人のALTの先生と一緒に語学演習をしたりラファエル校で発表するクイズと日本文化体験の内容を考えました。どうしたら外国の方に分かりやすく伝えられるか、楽しんでもらえるかどうか不安だったけど、ALTの先生にアドバイスをいただいたおかげで、私は自信を持ってカウラで交流する事ができました。ALTの先生方にはとても感謝しています。



▲事前研修会に取組む

5日間のホームステイは明るく暖かいホストファミリーのおかげで楽しく過ごす事ができました。私のホストシスターはサッカー、テニス、バイオリンとたくさんの習い事をしていたので私もサッカーとテニスを一緒に習いに行きました。先生からのルール説明などは私にとっては英語が速く、聞き取れなかったけれど、自分なりに考えて挑戦してみれば楽しめるのだと学びました。休みの日には、ホストファーザーが農家で羊を飼っていたため、家族みんなでホストファーザーのお手伝いをしました。私は子羊を抱っこしてミルクを与える機械に入れる役割でした。暴れる子羊も追いかけたので良い運動になり体がぼかぼかになりました。汗をかきながらみんなと笑いながら農場にいた時間は、私にとって大きく心に残る時間でした。家族みんなで協力する事の楽しさは日本と変わらないのだと感じました。お別れは涙が出るくらい悲しかったけれど、それだけ思い出をたくさん作れたことが本当に嬉しかったし、いつかまた会いたいです。



▲ホストファミリー宅での交流

学校体験で行った訪問団からの発表は、ラファエル校の皆さんはリアクションがとても大きく、クイズや文化を発表すると笑顔になってくれたり興味を持って聞いてくれたので大成功でした。自分の国や町を伝える事はこんなに楽しい事なのだという事、一生懸命考えて自分の話す英語で伝えられる事がこんなに幸せな気持ちになれるという事を知りました。それに、2日間の学校体験の中でたくさんのお友達ができました。みんなの明るさに私も明るくなったし、たくさん私に質問をしてくれたので私もたく

さん質問しました。日本のお友達と話すようにカウラのお友達とも話せたのでとても嬉しかったです。1日目の校外学習で、カウラ市内にある戦争捕虜収容所跡地と日本人墓地を訪れました。景色を見たりお話を聞いて、平和はいつまでも大切にすべきだと改めて感じました。



▲日本人墓地を訪問

私はオーストラリアで、聞いた英語を自分の中で意味をつかめるよう意識して生活しました。習った表現や聞いたことのある単語が聞こえたらその後もよく聞いてみたり Japanese と言っていたら私の話なのかなと思って耳を傾けたり、自分に挑戦できることを一生懸命取り組みました。また、私はカウラで新しい英語表現を学びました。それは、ホストファミリーの会話を聞いて生活の中でこういう場面で使えるのだなと気づいて学んだ英語表現でした。その時学ぶという事は、誰かにこうだと教えてもらう事でもあります、自分でこうするのかなとよく考えて自分で発見する事というのも学ぶ事なのかもしれない、と考えるようになりました。

今回カウラで深い交流が出来た事への嬉しさを感じると共に、お世話になった方々やご支援くださった方々には感謝の気持ちでいっぱいです。このような貴重な経験をさせていただき本当にありがとうございました。オーストラリアやカウラの良さをたくさん学ぶ事ができた機会でしたが、日本や白石市の良さも改めて知ることができました。今後も他国や自国に関心を持ち続ける事を忘れず、自分の外国語学習を継続していきたいです。

「令和5年度オーストラリア友好親善訪問団の引率を終えて」

オーストラリア友好親善訪問団 団長 荒生 博幸

今回、7月24日(月)から8月2日(水)までの10日間、訪問団の引率として参加させていただきました。私自身は、オーストラリアやアメリカ、シンガポールなど英語を公用語にしている国への渡航経験はあるものの、英語を話すことはできません。それなのに、8人の中学生の引率をするなんて責任の重さを感じ、それからは不安で眠れない日が続きました。オーストラリア訪問まで、4回研修会があり、生徒たちは真剣に語学研修と、向こうで披露するパフォーマンスの練習を重ねていました。言葉が通じないとはいえ、生徒たちの一生の思い出になる訪問なので、オーストラリアでは精いっぱいサポートしなければいけないと感じました。



▲聖ラファエル校への記念品を預かる

24日の出発式後、白石南中学校の一條先生、ツアーガイドの門間さんと共に11人で白石蔵王駅から東京駅を經由し羽田空港に向かいました。門間さんのお陰でスムーズに搭乗手続きまで進み、定刻通りに出発し、翌朝8時にシドニーへ到着しました。

到着後は現地ガイドの菅さんの案内で、シドニー市内を観光し、生徒たちはリラックスしている様子でしたが、私と一條先生はパフォーマンスが終わるまで気が気ではありませんでした。昼食と夕飯は、フィッシュアンドチップスやステーキなど豪華で量はオーストラリア人サイズでしたが、生徒たちは現地料理を喜んで食べていたので、安心しました。翌日は300km離れたカウラ市にバスで向かうので、車酔いの懸念もあるため早めに寝て体調管理に留意しました。

翌朝は7時に朝食後、8時には出発です。子供たちはホームステイやパフォーマンス披露に対し、特にナーバスになっている様子もなく普段通りでありました。午後3時前に聖ラファエルカトリックスクールに到着し、校長先生や他の先生たちとあいさつをしたあと、校庭でバレーボールをしている生徒たちに混ざって白石の生徒もバレーボールを始めました。積極的な一面が見られてびっくりしましたが、このオーストラリア訪問に手を上げている時点で、そういった生徒たちの集まりなんだろうなとも思いました。その後、白石の生徒たちは、それぞれのホストファミリーと家に帰りました。

翌日は校外活動として、インフォメーションセンターで日本人捕虜の脱走事件の話の聞いたり、そのころのカウラの様子の写真が掲げられていたのでそれらを観たりしました。その後、サクラアベニュー、日本人墓地、日本庭園などを見て、カウラでは日本が大事にされている風景を見ました。維持管理がしっかりされていてとても綺麗な

日本庭園でした。

学校訪問最終日は、一時間の白石市の生徒によるパフォーマンス披露の時間をいただき、白石市についての紹介やクイズなどで現地の生徒と交流し、最後に茶道班、書道班、折り紙班に分かれて、実際にお茶を点てたり、書道で書いてもらったり、折り紙を折ってもらったりして楽しい時間を過ごしました。パフォーマンス終了後はそれぞれのホストシスター・ブラザーたちと授業に参加し、授業スタイルが日本と違って戸惑ったと言っていました。でも、現地生徒はみんながフランクなので苦にはならなかったようでした。

翌日からの土日は、引率の我々をホームステイでお世話になっているキャシー先生の案内で、カウラ近郊のダウンタウンや動物園などを見て、有意義な週末を過ごしました。

ある程度、英語を勉強してはいましたがホストファミリーとの生の英語はやはり聞き取るのは難しく、コミュニケーションは少ししか取れませんでしたので、もっと勉強しレベルアップを目指したいと反省しました。



▲報告会での活動報告

ホームステイ終了後、シドニーへ移動し、クレアシドニー事務所を訪問しました。クレアには東京都や和歌山県から派遣された職員がJETプログラム（語学指導等を行う外国青年招致事業）の事務や、オーストラリアでの日本普及業務などの自分たちの活動内容紹介がありました。シドニーでの普段の生活サイクルなど具体的な海外での生活状況も聞くことができたので、生徒たちには将来役に立つ話が聞けたと思います。

今回のオーストラリア訪問で、私たち引率者と生徒たちはホームステイや外国での授業体験など異文化をたくさん感じました。特にほとんどの生徒たちは初めての海外でしたので、何もかもが新鮮で思い出に残る旅だと思われれます。

将来はこれを機に、留学して英語を習得する生徒も現れると思うので、国際社会で活躍してほしいと願っております。10年後が楽しみです。

また、私はこの海外訪問引率には以前から興味を抱いておりましたので、今回の4年振りの募集に、課長の推薦を貰って応募し、選考の結果、引率の団長に任命されたため急遽10日間職場を不在にすることとなりました。そのため、税務課の皆さんには迷惑をかけましたが、ご協力をいただき、また、訪問の準備をしていただいたまちづくり推進課や保護者の方々など関係者の皆様には心から感謝申し上げます。

このような大変貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。

「かけがえのない10日間☆多」

オーストラリア友好親善訪問団 副団長 一條 亜紀子

令和5年度オーストラリア友好親善訪問は、7月24日から8月2日の10日間の日程で行われました。新型コロナ感染症の影響が収束し、4年ぶりの実施です。私自身も、海外への渡航は7年ぶりで、団長とともに8名の中学生を安全に引率することに緊張感もありました。

しかし、終わってみると、みんな元気に10日間を過ごし、たくさんの学びや思い出を得て無事帰国することができました。そばで見ていると、挑戦する勇気をもった、本当にパワーのある子どもたちだなと感じました。



▲事前研修会を進行を行う

まずは、聖ラファエル校体験2日目のプレゼンテーションです。4回の事前研修で、発表内容を決め、練習し、リハーサルを行うという厳しいスケジュールでしたが、本番は大成功！自主的に練習を重ねてきたことが分かる流暢な英語で、よく本番であれだけの力を発揮できたなど感動しました。度胸と本番への強さ、そして一人一人の努力の賜物です。まちづくり推進課の皆さんが準備してくださったギフトも大変人気で、聖ラファエル校の約200名の中高生は大盛り上がりでした。日本への関心が、予想以上に高いことに、日本人としてとてもうれしく、誇りに思いました。

5日間のカウラでのホームステイも、生徒たちの力が発揮されたプログラムでした。各家庭に一人でホームステイします。英語や生活習慣など、5日間一人で大丈夫かなと心配な面もありましたが、生徒たちは、今ある英語力とコミュニケーション能力でしっかりと乗り切りました。分からないことや困ったことがあるときにどうするか、どうしたら自分の意志や気持ちに通じるか、子どもたちなりに考えて必死にコミュニケーションを図ろうと努めたはずです。ホストファミリーの方々と話すと、そんな子どもたちの様子がよく伝わってきました。楽しい、うれしい、感謝、気持ちは、きちんと理解されています。うまく伝わらなかった、聞き取れなかったと振り返る生徒も多かったです。5日間のホームステイを経て、子どもたちの英語力やコミュニケーション力は確実に向上しています。

生徒たちの感じとる力や学びとる力にも感心しました。

カウラ市には第二次世界大戦時の戦争捕虜収容所や戦争墓地があり、「カウラ平和の鐘」など、世界の平和を願う場所がいくつもあります。特に、戦争捕虜収容所には多くの日本兵も収容され、1944年には日本兵脱走事件が勃発し200名以上の方が亡

くなりました。敵国であったにも関わらず、カウラではその日を記念日とし、戦争が引き起こした悲しい出来事を忘れないようにしています。現在、跡地は野原となりわずかに建物跡が残るだけですが、モニュメントや石碑が設けられ、大切な場所とされています。戦争墓地には、そうした日本兵や、小さな子供から女性など、多くの日本人のお墓が並んでいます。遠いオーストラリアで命を落とした多くの日本人がいたこと、そしてこのような悲惨な戦争の結末もあったことを知り、生徒たちは「戦争」や「平和」について静かに考えていました。また、美しく整備された施設から、カウラと日本のつながり、そして国や人種に関わらず人への思いやりにあふれたカウラの人々の温かさを感じていました。現在、私たちがこうして、ホームステイや学校での体験を通して交流を深められているのも、長い間カウラで育まれてきた平和教育のおかげなのだと思います。

生徒たちにとってはもちろん、私にとっても、オーストラリアでの10日間はかけがえのない体験となり、多くの気づきや学びがありました。

子どもたちが生の英語を学んでいる場面を目の当たりにしたことは、英語教員としてとても刺激になりました。心配していたホームステイ初日、翌日集まった生徒たちから「would like っていっぱい使ってた」、



▲報告会でのあいさつ

「perhaps ってどういう意味？」との会話が聞こえてきました。英語だけの環境の中、英語を使うことが必然であり、生活するため理解し合うために英語が必要です。伝わらなかつたり理解できなかつたりすることは辛いはずですが、でも子どもたちは、楽しそうに生き生きと、聞き取れた英語や初めて聞いた英語について話していました。目的をもって自ら意欲的に英語を学んでいる様子に感激しました。初めての体験にわくわくしている姿に、たくましさも感じました。

普段の英語の授業から、英語を使う必然性や、生徒たちが英語を使いたいと思う場面を設定していかなければと改めて思いました。また、「伝えたい」、「理解したい」という互いの気持ちが、より深い言語学習やコミュニケーションにつながるのだなと実感しました。それが平和につながるのだろうなとも思いました。

今回のオーストラリア訪問は、子どもたちの大きな可能性を感じ、英語を学び教えることの原点に立つことのできた、大変有意義な旅となりました。

このような貴重な機会を設けてくださった白石市、聖ラファエル校の関係された全ての方々に、心より感謝申し上げます。また、ともに訪問した団長の荒生さん、8名の団員のみなさん、保護者の皆様、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

～オーストラリア友好親善訪問団活動の記録～

★6月6日（火）「保護者説明会」

派遣団員決定後、初めて全員が顔を合わせました。事務局からの説明にしっかりと耳を傾け、派遣団員としての使命や責任について理解しようとしていました。

生徒の表情は緊張とワクワクが混ざっている様子がうかがえました。



★6月13日（火）

「第1回事前研修会」

初めての顔合わせとなった保護者説明会から1週間。オーストラリア訪問での生活を見据え、まずは、自己紹介やアイスブレイクなどを行いました。研修を進める中で、10日間ともに生活をする仲間と少しずつ距離を縮めていきました。

第1回目は、ALTによる語学演習から聖ラファエル校で発表する全体発表、班活動の内容について、団員全員で意見を出し合いました。

語学演習では、初めは声も小さく笑顔も少なかったですが、会話を重ねるうちに自然と声も笑顔も出てくるようになりました。

発表や班活動については、各自やってみたいことや伝えたいことを出し合いました。



★6月22日（木）

「第2回事前研修会」

出発まで約1か月と迫った第2回研修会。この日は語学演習を行ったのち、全体発表で行う「クイズ」の内容を全員で話し合いました。

1人ひとつ、クイズにした内容を持ち込み、発表する順番や担当を決めました。第1回の研修会より雰囲気も和やかになり、発言が活発化しました。



★6月29日（木）

「第3回事前研修会」

事前研修会も残り2回となり、この日は班ごとに行うプレゼンテーションについて、取り組みました。各班ごとに流れや紹介内容、紹介原稿について話し合い、ALTや英語科の先生に本番さながらに実演も行いました。

それぞれが役割を理解し取り組む姿勢はとてもたくましかったです。

★7月6日（木）

「第4回事前研修会」

最後の事前研修会となったこの日は、全体発表のリハーサルや班活動の最終確認を行いました。

どちらも最後の確認ということで生徒はこれまで以上に真剣に取り組んでいました。白石市の中学生代表としての心意気が見えるととても素晴らしい研修会となりました。



～オーストラリア友好親善訪問団活動の記録～

★7月19日（水）「結団式」

全4回の事前研修会もあっという間に終わり、本当のスタートに向けた結団式が行われました。

山田市長からは、「色々なことに挑戦してほしい」「白石市、日本の親善大使としてPRしてきてほしい」とお話をいただきました。市長の激励に生徒たちは真っすぐな眼差しで話を聞いていました。



その後、事前研修会の成果披露として、全体発表の一部をお披露目しました。

生徒は少し緊張しながらも練習の成果を存分に披露し、出席者は生徒から出されるクイズに楽しみながら答える様子もありました。

また、抱負として「新しい知識や文化を学び、今後の学校生活などに役立てたい」と決意を語りました。

★7月24日（月）「出発式」

待ちに待った出発の日。生徒の表情はとても明るく、これから始まる日々期待を膨らましているようでした。

生徒代表あいさつでは、「代表として、感謝と礼儀を忘れず、オーストラリアでの活動を通して、異文化に触れ、たくさんのお話を吸収して帰ってきます。」と力強い言葉がありました。



～オーストラリア友好親善訪問団活動の記録～

★8月2日（水）「解散式」

10日間の行程を無事に済ませ、訪問団は白石蔵王駅へ帰ってきました。

大きなトラブルもなく、立派に役割を果たした生徒は、達成感や自信に満ち溢れた表情をしていました。

生徒代表あいさつでは、オーストラリアで学んだことや関わってくれた方々への感謝の気持ちを伝えました。



★8月16日（水）「報告会」

国際交流協会主催で行われた報告会には、活動の報告を聞こうと約30人が集まりました。

生徒は、学校体験やホームステイなどオーストラリアでの活動を発表しました。特に学校で披露した全体発表や班活動について、とても喜んでもらえたと、充実した様子で伝えていました。

★8月25日（金）「解団式」

帰国から約3週間後、解団式が行われました。

解団式では、オーストラリアでの活動報告や今後の決意を表明しました。

それぞれの将来に向けて、今回の派遣事業を通して、英語力などのレベルアップを誓いました。派遣事業を通して、よりたくましくなった生徒たちが世界に羽ばたくことに期待します。



令和5年度オーストラリアへの
白石市中学生派遣事業実施報告書

令和5年11月発行

編集発行 白石市国際交流支援協議会事務局
(白石市まちづくり推進課内)